

■日時：平成28年3月7日（月） 午前10時～11時30分

■会場：府中市立ふるさと府中歴史館3階

■出席者：（敬称略）

[委員] 亀山 章、坂詰 秀一、佐藤 信、野澤 康、大室 容一、大津 貞夫、田中 篤也、  
濱中 重美、岡野 光男、町田 昌敬、雫石 明男、佐伯 富丈（今坂委員の代理、  
府中市生活環境部経済観光課長）

[指導助言] 伊藤 敏行

[事務局] 後藤部長、江口課長、黒澤課長補佐、和田主査、小林  
（以上、文化スポーツ部ふるさと文化財課）

[オブザーバー] 斉藤 哲男（JR府中本町駅助役）

[コンサルタント] 株式会社歴史環境計画研究所 秋山 邦雄

■欠席者：（敬称略）

[委員] 藤井 恵介、長島 剛、中村 義博、今坂 英一、中川 健介

[指導助言] 山下 信一郎、市原 富士夫、深澤 靖幸

■傍聴者：なし

■議事日程

1 開 会

2 ふるさと文化財課長挨拶

3 議 題

（1）国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用整備工事（第1期）実施設計の概要に  
ついて

（2）その他

4 閉 会

■配付資料

・【資料1】国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用整備工事（第1期）実施設計  
の概要

・【資料2】国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用整備工事（第1期）図面

■会議録

1 開 会

事務局の司会により、午前10時に開会した。

## 2 ふるさと文化財課長挨拶

### 3 議 題

(1) 国史跡武蔵国府跡（国司館地区）保存活用整備工事（第1期）実施設計の概要について

<会 長>

それではまず、事務局より資料の説明を求めます。

<事務局>

[事務局より、配付資料に沿って説明]

<会 長>

ありがとうございました。委員の皆様からご質問・ご意見があればお伺いします。

A委員いかがですか。

<A委員>

今回の実施設計は、基本計画・基本設計に基づいて行われているということか？基本設計から実施設計までの間に何か大きな変更はあるのか？

<事務局>

基本計画でのゾーニングや、基本設計で示した整備の基本方針・方向性については変わっていない。

<A委員>

基本計画でのゾーニングがそのまま引き継がれているということか？

<事務局>

平成24年度に基本計画、平成25年度に保存管理計画を策定し、平成26年度に基本設計を行った。ゾーニングについてはそのまま引き継がれているものである。

<会 長>

ありがとうございました。B委員いかがですか。

<B委員>

個人的に、国司館の原寸大の復元が出来ないのは残念だった。たとえば脇殿だけでも、古代風の建築で復元したり、あずまや風に柱に屋根をかけたたりする検討の余地はあるのでは、と考えている。

遺構保護のための盛土は30cm程度とあるが、これで十分なのか？サインや説明板の基礎が深く入るものがある。

<事務局>

サインや説明板の基礎が確かに一番深くなっているが、現状で既に（数十cmの）盛土がされている上に、さらに盛土をすることになるので、遺構は確実に保護される。

<B委員>

国司館の建物遺構だけが重要なわけではなく、正殿と脇殿で囲まれた広場も（儀式等の場として）重要である。古代にまつわるイベントを行う際には、この空間も大切にしていきたい。また、第2期工事の賑わい創出ゾーンの整備についても、文化財保存のために公有化した土地である、という大前提を踏まえたうえで、史跡のガイ

ダンスや体験学習スペースをしっかりと確保していただきたい。

国司館の広場はインターロッキングよりも、土系の舗装の方が当時の景観に近いと考えるが、土系舗装ではだめなのか。石張りの面積も広いようだが、見た目に目立ってしまうと思われる。可能な限り土系舗装で当時の景観に近づけるのが良いのでは。

<事務局>

国司館の広場については、市としてもその重要性を認識している。

土系舗装については、以前、全国各地の史跡整備で採用され、当市でも国史跡武蔵府中熊野神社古墳で採用した前例があるが、霜柱等により、当初の見込みより遥かに早く、数年程度で劣化してしまうことがわかった。これについては文化庁にも相談しているが、現在は土系舗装で新規に施工することは難しいようだ。配付資料の中で国衙地区の透水性インターロッキング施工例を載せているが、このようなかつちりとしたイメージではなく、国司館にのイメージにふさわしくなるよう配慮する。石張りについても同様の考え方で、色等の詳細については今後詰めていく。

また、第2期工事のガイダンス施設について、以前にB委員からご意見をいただいた「模型の設置」をガイダンス施設内で行いたいと考えている。

<会 長>

以前よりB委員からご意見をいただいていたことに関しては、事務局として十分に検討を行い、文化庁・東京都とも協議を重ねた上で、本日の設計案が提出されていると思う。ただし、できる限り土のイメージに近い整備を、ということに関しては、事務局としても十分に配慮されたい。

<B委員>

ありがとうございます。

<会 長>

続いてC委員、いかがですか。

<C委員>

柱表示の高さはどれくらいになるのか？

<事務局>

国衙地区で整備されている柱の高さと同様である。

<C委員>

柱は取り外し可能とのことだが、取り外した際には蓋をして平らになる、ということではよいか？

<事務局>

はい。

<C委員>

A工区とB工区の間の本杭ロープ柵は、第2期工事竣工までの間だけ暫定的に設置されるものということか？

<事務局>

はい。

<C委員>

B工区には（工事までの間）クローバーを植えるとのことだが、立ち入り禁止にな

るのか？ 子どもの遊び場になっても良いような気もする。

<事務局>

史跡の西側には、南側の公開空地へ抜ける仮設通路がある。この仮設通路の柵に子どもたちが登ったりすると管理上問題があることから、木杭ロープ柵を設置するものである。

<C委員>

災害発生時の対応はどうなるのか？ もし災害が発生した際には多くの市民が集まってくると思われるが、市の災害対策の中での位置づけはあるのか？

<事務局>

市の防災危機管理課と既に協議をしており、一時避難場所としての位置づけはあるが、それ以上の機能については、すぐ近くにある矢崎町の防災公園が受け持つと伺っている。

<C委員>

わかりました。

<会 長>

D委員いかがですか。

<D委員>

国衙地区連携ゾーンの石張りには山車が入ってくることを想定しているとのことだが、重さはどの程度まで耐えられるのか。

<事務局>

山車の正確な重さがわからないが、前例として国史跡武蔵府中熊野神社古墳でも同様に山車が入ってくるエリアがあり、それと同様の設計になっている。

<D委員>

景観を乱さない範囲でサインを設置するとのことだが、この場所に何があるのか、外から見てもわかるよう、可能な範囲でサインを設置していただきたい。

また、第2期工事竣工までの間、トイレを設置する予定はあるか？

<事務局>

トイレについては、駅前なので、設置するなら景観上の配慮も含めてきちんとしたものを置くべきだと考えて検討したが、給排水の問題もあり、第1期工事でのトイレの設置は断念した。

イベント開催時などの仮設トイレの設置については検討してまいりたい。

<会 長>

E委員いかがですか。

<E委員>

インバウンド、外国人観光客に対する対応は大きなテーマになってくるだろう。平成31（2019）年にラグビーW杯、平成32（2020）年に東京オリンピックが開催されるタイミングにちょうど重なるので、サインの多言語表示など、外国人観光客へアプローチが重要になってくる。

<会 長>

既に国衙地区では、多言語の解説パンフレットを作成し配布を行っている。その他

に市として何か考えているか？

<事務局>

サインの多言語表示については対応していく。市としては、経済観光課や観光協会が中心となって、2019、2020年に向けたインバウンド対応について、市全体でプロジェクトチームを作って動き出しているところである。

<会長>

F委員いかがですか。

<F委員>

オリンピックの開催後の東京においては、観光が非常に重要視される時代になってくるはずだ。府中本町の駅前にあるこちらの史跡は、当然大きな注目を集めるだろう。そんな中で、果たしてこれで良いのか、という疑問はある。賑わい創出ゾーンの整備を中心市街地活性化基本計画の中に位置づけて進めていくとのことだが、少ない面積の中でこれを中活で進めていくのも無理があるのでは。

JRとの協議はどうなっているのか？ JRと協働で何か計画を進める予定はあるのか？

<会長>

史跡指定地としての文化庁からの指導や、その他の法的規制等を十分に検討したうえで、事務局が作成した実施設計案である。第2期工事の賑わい創出ゾーンについては、今後改めて、駅前の一等地を有効活用する方法を検討していくことになる。

<事務局>

本日は欠席となっているが、JR東日本八王子支社の担当課長に委員として加わっていただいている。引き続き、JRとの協議・連携は欠かせないと考えている。

<会長>

G委員いかがですか。

<G委員>

地元では、史跡の整備がなかなか進まないことへの不安、不満の声もあったが、これでようやく具体的な形が見えてきた。地元としてはできれば物産店や、夏の暑い時期の為のあずまや等の休憩場所、トイレ、水飲み場、こういったものは少なくとも必要ではないかと考えている。第2期工事でのJRとの連携についても是非前向きに検討していただきたい。

くらやみ祭の山車については、入り口は十分な広さを確保していただいているが、敷地内で舵棒を切って回転させる際に石敷きを傷める可能性があり、その点は十分に注意が必要だ。地元として、できるだけ早い整備と地域の活性化を望んでいる。

<会長>

ありがとうございました。整備が遅れているとの指摘があったが、事務局としては現状を踏まえながら、十分に検討しながらここまで設計を進めてきたものと思う。

第2期工事までの間、イベント開催時に何らかの仮施設が必要になると考えられるが、事務局として何か対応を考えているか。

<事務局>

国司館のヴァーチャル復元を行うにあたり、タブレット端末の貸出を行うための仮

設建物が必要になる。その建物内で休憩をとっていただくことを検討している。これについてはあくまで仮設ということになるので、今回の整備工事とは別に発注を行うことになる。

<G委員>

竣工後の管理体制はどうなるのか。

<事務局>

最終的には、全体の管理やイベントの運営を民間で行っていくことを想定している。その中で、いかに地元の皆様に関わっていただきながら、協働で事業を進めていくのが重要であり、これまでもご相談させていただいてきたとおり、今後も進めてまいりたい。

<会 長>

これまでの委員の皆様のご意見を踏まえまして、副会長いかがですか。

<副会長>

先日、JRの「駅からハイク」が開催されていたが、大変盛況であった。散策スポットとして府中は注目を集めはじめている。この良い流れをうまく国司館地区の活用につなげていきたい。個人的には実物大の復元を望んでいたが、それはできないとのことなので、それでも一度来訪された方が二度三度と繰り返し来訪してもらえるような活用を考えていかなければならない。

また、国府・国分寺繋がり、国分寺市との連携も重要で、より広域的な視点での回遊性も検討していく必要がある。

<会 長>

ありがとうございました。指導・助言の立場から、東京都さんいかがですか。

<東京都>

市街地の駅前一等地にある史跡として、国司館の地区の整備活用が成功するのかどうか、非常に注目を集めているところである。

B委員から土系舗装の話があったが、各地でやはり数年で劣化してしまい失敗するケースが相次いでおり、もし土系の色にこだわるなら、そのような色をしたコンクリで固めるしかないのが現状である。古代の空間としての雰囲気は損なわれてしまうのも問題なので、石張り・インターロッキング含め、材質についてはまだ検討の余地があるのではないかと。

<会 長>

ありがとうございました。他に何かございますか。

<H委員>

事務局に確認したいのだが、1期工事と2期工事を分けるロープ柵は、果たして実効性があるのか。夜間など、容易に乗り越えてしまうことができるのではないかと。

<事務局>

地元住民の要望もあって、1期工事竣工時点では、夜間はこの敷地内全体を閉鎖することで検討しているので、ご指摘の件は問題ない。ただし2期工事竣工後の夜間の管理については、今後検討を進めてまいりたい。

また、先ほど説明が不足していたので補足すると、1期工事竣工の時点で、1期工

事範囲は盛土をして整備をするので、2期工事範囲との間に段差が生じることになる。これも、ロープ柵で区切る理由の一つである。

<H委員>

北東側の横断歩道について、国司館地区側から直接東へ渡る横断歩道がないため、一旦北側に渡ってから東へ渡ることになる。警察協議が必要になると思うが、直接東へ渡る横断歩道を設置する予定はあるのか。

<事務局>

横断歩道については、今後関係部署と協議してまいりたいと考えている。

<I委員>

給排水や電気設備について、2期工事にまわすのではなく、1期工事の段階で整備しておく必要があるのでは。

<事務局>

雨水・排水対策については、市の下水道課と協議し、2期工事も念頭に置きながら、指導を受けた内容を反映した設計となっている。

<会 長>

この点も含め、今後、市の内部での調整が必要なことが色々あるようなので、十分に協議・検討をするようにお願いします。

<I委員>

植栽について、ウバメガシも高く伸びる樹木ではないのか。

<会 長>

ウバメガシについては、先日開催された市の文化財保護審議会において、植物分野専門の委員からの提案を受けたものである。

委員の皆様、他に何かございますか。

無いようでしたら、次の議題「(2) その他」について、事務局どうぞ。

## (2) その他

<事務局>

今年度の開催はこれで終了となる。

来年度は、にぎわい創出ゾーン民間市場調査の事業の進捗に合わせて会議を2回開催したい。1回目は9～10月頃、2回目は2～3月頃を予定している。日程が近づいてきたら、後日改めて全委員の予定を確認し、調整したうえで日時を決定したい。

<会 長>

ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして平成27年度第2回国史跡武蔵国府跡保存整備活用検討会議を終了します。本日は長時間に亘りありがとうございました。

## 4 閉 会

午前11時30分をもって閉会となった。